

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成 年 月 日

事業所名 わくわくクラブ茨木校

	チェック項目	はい	いいえ	現状や改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	有効活用できている。今後も適正な基準内で児童の特性における行動の特徴を考慮しながら適宜善処する。
	2 職員の配置数は適切である	5	0	法令に則った人員配置基準は満たしている。負担が偏らない様善処する。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	2	現状設備の中では最大限の配慮がなされているが、車椅子の使用は難しく、改善の余地がある為、優先順位をたてながら計画的に整備していく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	0	各種会議体の中で、協議と情報共有を図っている。また責任者による個別の面談等を通して職員一人ひとりの目標設定と改善行動の醸成に努めている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0	自己評価だけでなくイベント毎や年度初めや末に独自のアンケートを実施。改善の必要性を検討し、必要性があると認められる場合には可及的速やかに善処するよう努めている。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0	公表している。今後は公表されていることを周知する努力をしていく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	0	巡回指導に申し込み、完全なる第三者より特定の児童に対する支援方法の助言や研修を受けている。その際に現状の支援環境やスタッフ対応に対しても評価してもらい、より良い環境づくりに努めている。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	法人内において研修を実施し、知識・技術・思考等、他角度から職員の資質向上を図っている。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	ご家庭ごとのアセスメント等に基づいた計画を作成している。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1	ご契約前には必ずご家庭の状況や児童の行動面での分析をするためのツールを提出して頂いている。その後1年ごとに再提出を促し、児童の成長に合わせた分析の継続を心がけている。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	事業所内において各種行事ごとに役割分担し、その都度企画立案している。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1	事業所内において協議の上立案している。今後その意識が足りないスタッフに対しては研修や面談を実施し、全スタッフの意識統一に努める。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	0	季節や時期も含めた様々な視点でイベントを立案、実施している。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	児童の特性に応じて検討している。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1	毎日定例で行っている。シフトの時間によっては参加できないスタッフもいる為、連絡帳を作成し伝達漏れの無いように努める。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0	終了後に毎日定例で行っている。休みのスタッフには日報を活用し、共有に努めている。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	情報管理はすばやく正確に行うことを徹底し、より良い支援に生かすように努めている。
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	0	定期的実施検討している。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	5	0	児童の特性に応じて組み合わせている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	事業所ごとに必要性に応じて適切な担当者を決め、参画している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	1	充分とは言えないと考える。保護者からの要望があれば学校に足を運び、児童の情報を共有しているが基本は保護者を通じての情報共有にとどまっている。今後はより緻密な体制を整備していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	2	医療的ケアが必要な児童が在籍する場合は主治医等と連絡体制を整えている。その役割は現在管理職が務めている。今後はどのスタッフも意識共有できるよう研修内容に織り込んでいく
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	0	必要に応じて情報共有を図っているが、十分とは言えない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	1	まだその事例が無いが、基本的には移行先等から情報共有を求められる際に情報の共有を図っていきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	0	研修会や交流会に積極的に参加している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	5	今後は児童の実態に応じて立案していきたいと考えている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	2	必要性に応じて参加を検討していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	毎日保護者の方とコミュニケーションを図りながら信頼関係の構築に努めている。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	1	「トレーニング」というほどのものではないが保護者とのコミュニケーションの中で適宜取り入れてる。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	契約時に説明を徹底している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	定期的に情報交換する場を設け、悩み等の聞き取りとケアに努めている。必要とあらば電話連絡を試みている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	0	定期的に情報交換する場を設け、保護者同士の横のつながりを醸成できるよう努めている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	苦情には誠実かつ可及的速やかに対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	定期的なお手紙やHP上での情報発信に努めている。
	35	個人情報に十分注意している	5	0	法人内で規定を設けており、規定に則って適切に管理している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	基本的事項と考え配慮している。(視覚支援など)
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	3	十分にできているとは言えない。今後は地域に根差した事業所として発信力を強めていく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	0	契約時に説明を徹底しているがそれでも十分にできているとは言えない。定期的な周知の仕方を検討している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	適宜行っているが、保護者に伝わりづらいため周知の仕方を検討している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	法人内外の研修等に適切な人員が参加し、職員同士の情報共有に努めている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	0	必要に応じて保護者へ説明を図っているが、十分とは言えない。今後は契約時における説明を徹底していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	0	体験問い合わせ時とイベント応募時に必ず確認し、スタッフ間で共有している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	作成及び共有は常時行われている。